

議会だより

目次

第4回定例会報告	2～3
町政のそこが聞きたい	4
一般質問	5～9
常任委員会の動き	10～11
議員研修会	12
林活研修会・中標津合同庁舎内覧会	13
標津文教施設等整備の検討	14
議会の動向	15
寄稿	16



▲オールディーズナンバーを披露する『ザ・ミストーンズ』のメンバー

オールディーズナイト2025 in 川北

◆11月8日(土)、川北生涯学習センターの「川北文化祭」の協賛事業として、『オールディーズナイト2025in川北』が開催されました。115名の来場者が「食べて、飲んで、聴いて、踊る」楽しい土曜日の夜の2時間を堪能しました。
 【出演者】【オールディーズバンド】ザ・ミストーンズ(釧路)
 【ゲスト】【クラリネット】山本祐一氏・【レディーズバンド】リバーノース(共に川北)

発行／北海道標津町議会

編集／広報特別委員会

令和7年 第4回 定例会 (12月15日)

審議内容を報告します

行政報告 (町長)

▽基幹産業の状況

酪農業

生乳の生産は、令和7年4月から11月までの8カ月間では、対前年比96・4%の73180トンで推移。本年度は11万1800トンを見込んでおり、今後の推移を注視していく。

9月末現在の農業生産額は、乳用牛・肉用牛の個体販売価格で前年比2億6900万円の増加となっており、

水産業

秋サケ漁は、小定置を含めた数量は対前年比16%の10万9352尾の284トン、金額は同比26%の4億5700万円と千トンにも満たない未曾有の災害級の大不漁の中終わり、全道的な不漁であった。

また、本町を含む根室北部の親魚捕獲状況は、対計画比34%で推

個体価格や乳価の値上がりもあり、対前年比106・5%の71億6200万円で推移している。

移し、種卵を移入しながら、計画の50%強までの種卵は確保できる見通しだが未来のサケ資源への不安を一層高める状況となった。

ホタテ漁は、年間計画数量4200トンに對して12月8日時点で累計数量は3640トン、金額は23億1447万円と令和3年の19億1223万円(8412トン)を抜き、過去最高の生産高を更新している。

▽久留米大学との連携強化

令和7年12月末日をもって学校法人久留米大学永田見生理事長の勇退にあたり、表敬訪問した際に永田理事長と懇談した中で「標津病院のことは久留米大として今後もしっかりとフォローさせていただく」旨の話をいただ

いた。

新理事長が正式に就任後、令和8年の早い時期に表敬訪問し、本町の安定的な医療提供体制の維持・強化のため、引き続き連携強化をいただけるようお願いしていく。

常任委員長報告

令和7年委員会の開催状況等の活動を報告。主なものは次の通り

〈総務経済〉

- 1月：
・ 標津町のヒグマ状況
- 3月：
・ 金山スキー場の現状と課題、サーモンプラザの決算
- 6月：
・ ふるさと納税の実績と今年度の取り組み
- 7月：
・ 一般質問の検証(住民にやさしい役場庁



条例制定や補正予算案などが審議された第4回定例会

舎)

8月:

- ・林業ロボット開発の進捗状況

9月:

- ・中標津町畜産食品センター視察

10月:

- ・地震津波に関する協議

11月:

- ・町内8カ所の緊急避難場所視察（文教福祉建設常任委員会と合同）

〈文教福祉建設〉

1月:

- ・標津高校への支援対策等、公営住宅の今後の使用方法

3月:

- ・ひまわり温泉の利用と施設維持管理の状況、除排雪経費の執行状況

8月:

- ・地域包括ケアシステムの7構築に向けた



- 地域包括支援センターの役割と現状・課題

9月:

- ・若草公住（特定公共賃貸住宅）の改修状況、公住入居状況

10月:

- ・一般質問の検証（スポーツハウスの利用視察・検討）

11月:

- ・学校給食センター視察

条例制定

- ▽職員の給与に関する条例の一部を改正する条例制定

- 人事院勧告に準じる料改正

▽町長、副町長及び教育長に対する期末手当市況に関する条例及び標津町議会議員及び標津町議会議員の議員報酬等に関する条例の一部を改正する条例制定

人事院勧告に準じる改正

▽標津町生涯学習センター条例の一部を改正する条例制定

人事院勧告に準じる改正

調整備が完了し、すべての部屋が「冷房費」の対象になり、部屋ごとの料金計算差別化が不要になったことなどによる料金体系を見直し。令和8年4月から

補正予算

▽一般会計

- 予算総額に57183千円を追加し、予算総額を79億5058千円に。主な補正予算は次の通り

- ・北方領土館補修（女子トイレ内壁修繕） 1524千円
- ・地熱開発促進調査（同調査検討委員会開催経費） 551千円
- ・冬の生活支援特別対策（灯油価格高騰による低所得世帯の負担増を軽減するため、冬期間の暖房用燃料購入費の一部を助成。対象見込み340世帯、1世帯1万円の商品券支給） 3464千円
- ・特別養護老人ホーム補修費等補助（はまなす苑特殊入浴機器 1817千円

更新)

1817千円

- ・公営住宅一般管理費（高額な修繕の発生、物価高騰等による公営住宅修繕料不足見込額の追加） 3591千円
- ・学校給食センター運営費（米価格の高騰による賄材料費の追加） 1071千円

- ▽標津町国民健康保険特別会計（事業勘定）
- ▽標津町介護保険特別会計（事業勘定）
- ▽標津町介護保険特別会計（サービス事業勘定）
- ▽標津町後期高齢者医療特別会計
- ▽標津町簡易水道事業会計
- ▽標津町下水道事業会計

- 計

一般質問

一般質問とは、定例会において、各議員が住民を代表して、行政全般にわたり町執行機関の政策・方針を質す事です。
単に疑問を晴らし、事実関係を明らかにするだけでなく、現行の政策を見直し、新規政策を提言する議員の重要な活動です。

町政のそこが聞きたい

◆令和7年第4回定例会(12月15日)で5議員が一般質問をしました。
各議員の質問項目とその内容を要約して質問順に掲載します。

▼質問中の5議員の様子

5 頁

吉田 智 議員

- 「関係人口」の創出・拡大に『ふるさと住民登録制度』への対応は？



6 頁

南 憲 治 議員

- 「道の駅」構想を質す！



7 頁

藤本 靖 議員

- 早期に「道の駅」の検討を！
- 「環境保全型かんがい排水事業」の導入を！



8 頁

石橋 昌幸 議員

- 上下水道事業を質す！
- 冬期を乗り越えるために！



9 頁

数間 景子 議員

- 「高齢者の足問題」の解決に向けて！





吉田 智 議員

問

「関係人口」の創出・拡大に

『ふるさと住民登録制度』への対応は？

答

本制度を有効活用するために

メリット・デメリットを把握検証していく

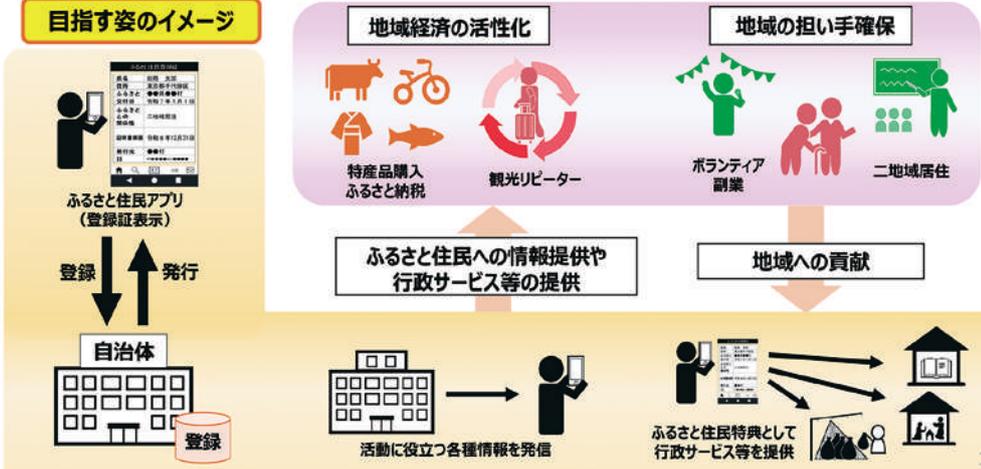
出典：総務省HP

「ふるさと住民登録制度」の創設について

図 版

- ▶ 「地方創生2・0」の実現に向けた取組として、「関係人口」に着目し、**住所地以外の地域に継続的に関わる方々を登録できる「ふるさと住民登録制度」の創設**に向けて検討中。
- ▶ 「関係人口」の地域との関わり方には、**消費活動等による地域経済への貢献**や、**ボランティアや仕事を通じた地域の担い手としての貢献**など、それぞれのスタイルに応じた様々な形がある。
- ▶ できるだけ多くの方々に地域を応援していただけるよう、**誰もがアプリで簡単・簡便に登録**でき、また**自治体の既存の取組を緩やかに包含**できるような柔軟かつ間口の広い仕組みの構築を目指す。

目指す姿のイメージ



【定住・交流・関係人口】

◆定住人口：その地域に住み、生活の拠点を置いている人。
 ◆交流人口：観光や出張などで一時的にその地域を訪れる人。
 ◆関係人口：地域外に拠点を置きながらも、地域や地域の人と継続的に関わる「第3の人口」を指す。▼その地域が好きで頻りに行き来する人▼その地域にルーツのある人▼過去に住んでいた・働いていた人▼その地に対して強い思い入れがあり、地域づくりに参加する意志のある人々。

問

総務省は、人口規模が縮小しても経済成長し、地方を元気にする事を主眼とした構想「地方創生2・0」の目玉政策として、「関係人口」を可視する『ふるさと住民登録制度』の創設を打ち出した。

具体的 な事業や戦略は本年度中に策定し、2026年度に運用開始予定となっている。「関係人口」が地域の担い手として、地方の持続可能性を支えるための制度的な枠組みを構築することが目的である。(図版参照)

『ふるさと納税』が「お金を通じた支援」であるのに対し本制度は「人との繋がりを起点とした関係性の構築」が主眼となっている。「関係人口」の創出・拡大に向け、本制度に対する対応を伺う。

答

関係人口に関しては、本制度を所管する総務省では、移住した定住人口でもなく、観光にきた交流人口でもない。地域や地域の人々と多様に関わる人々を指すものとしている。地方圏は人口減少、高齢化により、地域づくりの担い手不足という課題に直面しており、関係人口がその担い手となることが期待されている。

本制度の地方自治体向けの説明会が11月末に開催されたところである。この制度化により関係人口が可視化され、都市と地方がより一層深く関係し、地域コミュニティの刺激となることを期する。本制度を有効活用して行くために、メリット及びデメリットに関して把握検証していく。

問 「道の駅」構想を質す！

答 サーマンパークの「道の駅」の可能性を検討したい



南 憲治 議員

問 山口町長の「道の駅」構想についてであるが、令和7年7月3日開催の第3回標津町臨時議会において、二期目の町政運営に臨む山口町長は、所信表明の中で「決めるときは決める」という決断と挑戦を基本姿勢として方向性を示し、様々な行政課題を一つ一つ着実に解決するため、町政の運営に大きな決意を持って取り組んでいくと述べている。



観光交流拠点のサーモンパーク

また、町長が目指す町の姿の一つとして力強い産業づくりを掲げ、観光の拠点施設として役割を担う標津サーモンパークについて、さらなる魅力向上を図り、地域活性化や観光振興につなげるため、道の駅登録を視野に検討を開始している。

道の駅設置は、過去に道の駅設置に関する調査検討特別委員会における調査や議論の経緯があることを踏まえ町長の道の駅に対する具体的な考えを求める。

答 本町における道の駅の設置については、これまでも検討と議論を重ねてきた。近年、観光を取り巻く情勢は大きく変化しており、本町にとって再びこのテーマを改めて検討すべき時期にきている。

問 町議会による道の駅に関する調査特別委員会が設置され検討が行われた。それらの結果を踏まえ今後における標津町全体の活性化と地域経済の好循環を生み出す、また多様なニーズに応える拠点として、道の駅の可能性について採用の方向を見いだしていきたい。

平成27年9月に議会として調査特別委員会を設置し視察研修や検討を行いつつ、報告がなされた。観光交流拠点としてのサーモン科学館

は、施設の充実を実施し、観光客の増加を図る。最たる課題は施設のリニューアルを考慮したサーモンパーク全体の短・中・長期整備計画と考える。

しかし、10年が経過し取巻く状況は当時よりも悪くなっていると考える。決断とチャレンジの目標を掲げた町長の考え方を再度伺う。

答 これまでの検討経過や課題など、また現在の状況を踏まえサーモンパーク全体をどうしていくか本場に必要な施設なのかあるいは整備するとすれば、施設側の規模、機能は何か。検討も必要だと思ふ。地域経済の波及効果を最大限に引き出すものは何か踏まえサーモンパークの道の駅の登録について検討したい。



藤本 靖 議員

問 早期に「道の駅」の検討を！

答 登録できる判断材料を検討

問 先ほど南議員が道の駅について質問されたが、私からも質問をしたい。本年5月の新聞によるインタビュウの中で、町長より道の駅についての言及があった。サケ漁の不漁により標津市街地全体へのダメージはとて大きい。道の駅は、過去に何年も検討されてきた。町の商工業者を支援しながらこの事業を進めていく必要があるのではないか。

答 サーマンパーク以外の市街地で整備を求める声があり商工業振興上必要であることを真摯に受け止めている。その上で、現時点ではサーモンパークでの道の駅の登録を検討を進めている。既存施設を有効活用することは、町の財政負担を抑えつつ、より早期に道の駅

登録により財政的かつ早期に登録できる判断材料と考えている。

問 「環境保全型かんがい排水事業」の導入を！

答 酪農家の意向を確認し検討したい

問 現在、別海町等で国土交通省による環境保全型かんがい排水事業が実施されている。

開発局が、以前、調査をしているが当時は20%ほどの酪農家の賛同しか得られず見送っ

た経緯がある。今春、また過去にもスラリーの河川流入があり規模が大きくなってきている酪農家の作業負担の軽減や漁業者側の安心の為に標津町が間に入り再度、検討をすべきではないか。



かんがい排水事業のスラリータンク
釧路開発建設部提供

答 平成27年に同事業に対し要望があり同年6月から釧路開発建設部、町、農協の三者で事業の採択に向けた協議を開始した経緯がある。この事業についての整備負担率は、国が80%道15%、地元5%そして、地元負担のうち、町の負担は2%と

なっている。

この事業は、農家の皆さんの意向が最優先されるべきものと判断をしている。今後様々な機会を活用して家畜糞尿処理施設のあり方について農家の意向と方向性を確認していきたい。また来年度、第5期農業振興計画の策定を予定しておりアンケート調査等を実施し議論をしていきたい。

問 家畜糞尿処理、有効利用の問題については、これは重要で国の制度等を活用し対策を考えていくべき。

答 これは本当に重要課題であり酪農家の皆さんの理解を得ながら今ある標津町の制度あるいは国の補助などの制度、それらを活用しながら今後に向けしっかりとした対策を検討していきたい。

問 上下水道事業を資す!



石橋 昌幸 議員

答 料金改定は避けられない検討課題

問 水道事業について、当町の水は安く安全で、美味しい水を供給していただいて本当にありがたいなと思っている。

だが、気になるのは単年度収支では黒字であっても、人口減少や物価高騰もあって、経費を収益だけで賄うのは限界にきている。

上下水道は昭和50年から整備され50年経つものもあり、今後計画的な対応も必要である。これらについて町長の答弁を願う。

答 上下水道事業は住民に安心安全でかつ衛生的な水道水を供給し、下水道を適切に処理することを目的に運営され、施設の維持管理や改築更新にかかる経費が必要になり、それには料金収入が中心的な財源となり支えている。

料金回収率は75・1%であり、他町と比べると高い水準であるが、人口減少や物価高騰の影響で今後10年間で低下すると推察され、費用を収益で賄えることが難しくなるのは料金改定に向けて精査していくことはもちろんであり、基金のあり方についても検討している。余地はあると思っている。



ウラップ川水源地

問 冬期を乗り越えるために!

答 福祉灯油の見直しを検討中

これらにどう対応するのか町長に聞きたい。

答 漁業が置かれている状況は災害級とされている。漁協と協議し対策していかねばならない。物価高騰では物価指数が毎年上昇しており、国において総合経済対策を中心とした予算が成立され、地方に対する重点支援地方交付金が示されている。交付金額の決定はまだまだ、決定後改めて議会において予算提案させていただくが、一般家庭や事業者を含め広く支援が行き渡る上下水道の基本料減免や高齢者や低所得者、子育て世代の支援について既存事業の充当を検討していく。

問 標津町は秋サケにより大きく栄えてきたが、今年は記録的な不漁となり、商店でも火の消えた状態になっている。そこに物価高騰が続いている、福祉灯油の助成基準が実態とあっていないのでは。

また、福祉灯油の支給要件や限度額の見直し時期であると思っている。



数問 景子 議員

問 「高齢者の足問題」の解決に向けて!

答 令和8年度に国の補助を受け 具体的な検討に着手していく

問 昨年から予約制で

ドアTODアのデマンドバスが運行されたが、利用者は少なく主要な施策の成果ではこの評価となり、利用されている方にとっては大変喜ばれている一方で現状に対して不満や不安の声がある。

答 警察署調べでは75歳以上の運転免許保有者は440人です、440人は運転に不安を感じながらも日常生活のため続けざるを得ない方達であると推測する。

一方でデマンドバスの登録者は45人に対し実際の利用者は8人と利用率は17.7%にとどまっている。

その要因としては限定的な運行時間や待ち時間の長さ、往復での利用を困難としていると思われる。

7月に示された町政執行方針の中で高齢者が利用しやすい地域交通システムの構築とある。運転手不足も含め、これらの現状をどのように考えているか町長の見解を伺う。

答 従前からの循環バスの運行地域を三つのエリアに細分化をし、自宅でも乗り降り可能にし改善はしたが、エリアを分けた事で運行回数が減ったということになってい

るが、今年度から高齢者のサロン送迎などにサービスの充実化を図っており、ニーズに即したきめ細やかな対応が進み、利用者からは評価を受けているものと認識している。時間が合わず



町内を運行するデマンドバス

使いづらいと感じている方がいるとは思いますが、現実問題として委託しているバス事業者が運行可能な1往復で走っているわけである。都市圏でも運転手確保には苦労しており、人口減少が進む地域では一層困難な時代になっている。

これら課題解決に向け、持続可能な交通対策について特に高齢者の福祉サービス、児童

生徒の通学対策、一般町民の利用ニーズを踏まえ、財源対策を含め次年度に国の補助を受けて具体的な検討に着手していく。

問 私からの提案であるが短時間コースを設けてはどうか。帰宅時間が早くなることにより、高齢者の体力負担が軽減されるのではと。

答 高齢者の足の問題は本当に重要なことだと思っ

ています。これまで運行見直しや試行運転を行い、多くのことがわかってきた。

高齢者の皆さんがどこに困っているか、有償ボランティアという方法もあるし、運転手確保が難しい状況であるが、それに代わる何かを含めて検討調査をしていく。

常任委員会の動き

常任委員会とは…

地方議会において特定の行政事務分野ごとに常時設置されている専門的な委員会。本会議で審議される議案や請願・陳情などを専門的に調査・審査し、町の事務に関する事務の調査も行う。議員はいずれかの常任委員会に所属し、審査した結果は本会議に報告され、議会の意思決定となる。

総務経済常任委員会

◆第9回・9月26日

中標津町畜産食品加工 研修センター視察

中標津町の畜産加工研修センターは、町内外の誰でもが利用できる施設とし町営で運営されている。(要予約) 一般の人がチーズ、ソーセージ等の製品を作る体験施設としての機能だけではなく、中標津町の特産品製造施設としての機能も持ち合わせており、製造体験が休みの日には、ゴーターチーズ、ソーセージ等の製品を製造し、中標津町のふるさと納税の返礼品、中標津空港などの観光施設で製品の販売が



畜産食品加工研修センター視察の様子

されている。

視察当日は、標津町の方々が施設でチーズ作りを利用しており、当町においても町民が利用出来る施設として必要であると考えさせられた。センターの運営は、すべて町営となっており、職員は町職員であり、センターの運営に当たっていた。

文教福祉建設常任委員会

◆第9回・10月20日

スポーツハウスの利活用 視察（一般質問検証）

本件は、令和5年第4回定例会（12月13日開催）で山崎陸郎議員が、保健福祉センターが、保健福祉センターひまわりに併設されているスポーツハウスの有効活用について一般質問したものである。

町長は「令和6年度中には施設の利用案を示したい」と答弁していた。

同施設は高齢者の体力づくりなどを目的に平成9年に建設。これまで屋内ゲートボール場として、ゲートボール協会が利用。しかし、会員減により、協会が解散し、令和6年3月から施設を使用しないことになった。

視察では、担当から

これまでの検討状況を次の通り説明。

屋内運動場として、野球やサッカーなど雨天時や冬期間活用で、床を人工芝に、防球ネット設置、ガラス張り屋根をガリバリウム鋼板にするなど改修費に約7800万円がかかることから難しい。委員からは「多額の改修費をかけるのではなく、広く町民の声を聞く中で有効活用を検討していくべき」などと意見が交わされた。



スポーツハウス視察の様子

総務

経済

文教

福祉

建設

両委員会で緊急避難場所を視察・検証(11月26日)

7月30日に発生したカムチャツカ沖地震による「津波警報」により当町でも市街地住民に対して避難指示が出された。市街地に住む多くの住民が指定された避難場所を待機していた。

9月開催の定例議会において藤本議員より津波避難場所に関しての一般質問がなされ、その後議会として、住民にとって最重要事項であると捉えた上、総務経済、文教福祉建設の両委員会合同で、検証することとなった。11月26日、標津町が緊急避難場所に指定し

ている場所が適切だったのかどうかを確認するため、議員全員で避難場所へ向き、場所の確認と課題について検証した。

ベキシリ山、望ヶ丘公園、茶志骨神社、薫別神社までの海岸線沿

い8カ所を回り避難場所の確認を行った。

その後、避難場所に関する合同委員会を開催し、各議員からの意見聴取を行った結果、避難場所状況の駐車スペースの少なさ、また管理の不十分が指摘さ



標高17.1mのベキシリ山緊急避難場所を視察する議員連

れた。例として望ヶ丘公園に以前あった階段が無くなっている、また古多糠地区では、避難場所が未整備であるなど、避難場所全体の見直しが必要であることが両委員会の所見。

両委員会として、次回には町側からの聞き取りを行い、今後、予想される千島海構沖地震に備えて行く必要があるため、委員会からの提言を町側に示していく予定となっている。

◎避難場所の問題点は次の通り(抜粋)

◆ベキシリ山：旧テニスコート周辺の自動車誘導マーク(地面)が消えかかっており、塗り直しが必要。また災害時の自衛隊舎内への避難が出来るよう協定等の提携が急務。高校サッカー場も避難場所として利用出来るよう標津

高校(北海道)と再協議が必要。

◆望ヶ丘公園：駐車場が狭く止められる台数が少なすぎるため拡張が求められる。町道から徒歩で登ることが出来るため再整備が必要。避難者も利用できるトイレの再整備も検討する必要がある。

◆茶志骨神社：町民だけではなく観光客、町外者の避難もあるため駐車場の拡張、また町道への出入りが出来る誘導路の整備が必要。

◆忠類地区：避難場所に指定されている家が狭いため駐車場の新設拡張が必要。

◆古多糠地区：避難の体を為さず。

◆薫別地区：避難場所の拡充が必要。

今後、検討し、提案していく予定。

議員研修会

令和7年度 根室町村議会議長会主催
議員研修会

日時：10月24日(金) 午後2時30分～
会場：中標津経済センター 2F「コミュニティホール」

◆議会活動の活性化と議員の資質向上を目的として研修会を開催

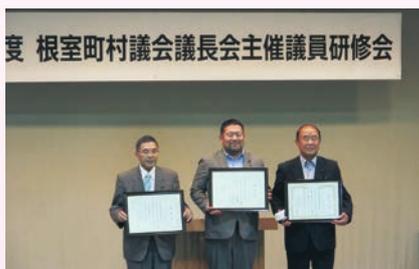
根室町村議会議長会主催議員研修会
中標津町で開催 議員・事務局員56名参加

10月24日、根室町村議会議長会主催の議員研修会が、中標津町にて開催され、関係者56名が参加。当議会より議員10名、事務局員2名の計12名が参加。



あいさつをする後藤会長

主催者を代表し後藤一男会長（中標津町）のあいさつの後、10年以上議員の職に当たる議員4名に対し、自治功労者表彰が行われた。
【令和7年度 自治功労表彰者】



表彰状を手にする
(右から)外山・小椋・山崎議員

▼表彰式終了後、全国町村議会議長会の議事調査部長の飯田厚講師による講演が行われた。講師は議長会が取り組んでいる町村会議の課題を詳細に解説された。

〔別海町議会〕
◇外山 浩司 議員
◇小椋 哲也 議員
〔標津町議会〕
◇山崎 英司 議員
〔羅臼町議会〕
◇加藤 勉 議員
(当口欠席)

講師

全国町村議会議長会
議事調査部長

飯田 厚 氏

【演題】
町村議会の課題に
対する本会の取組

講演

- ①議員のなり手不足対策検討会報告書
- ②議員報酬の適正化
- ③地方議会議員の厚生年金への加入
- ④休暇・休職・復職制度の整備
- ⑤主権者教育の推進
- ⑥政治分野の男女共同参画の推進
- ⑦議会のデジタル化の推進
- ⑧議員のSNS活用のメリットとデメリット等、「議員のなり手不足対策」と「議会への多様な人材の参画」に
関し、町村議会の抱える課題を提示・解説。



講演中の飯田講師

根室林活議連協議会

10月17日

～別海町にて研修会開催～

【演題1】「森林の生態系と森林の利活用事例について」
【演題2】「山しごとのおきてと『山の神』について」

【講師】 森林インストラクター
おおやま しげはる
大山 重治 氏



講演中の大山講師

大山講師は、長い林業経験を基に、上記の2つの演題に関して講演され、その後、質疑応答を行った。当議会より5議員が出席した。

令和7年10月17日、根室地方森林・林業・林産業活性化推進議員連盟協議会の令和7年度研修会が、別海町生涯学習センター『みなくる』にて開催された。参加した根室管内1市4町の50名の議員は、森林インストラクター大山重治氏の講演を拝聴した。

根室地方森林・林業・林産業活性化推進議員連盟協議会 〈略称〉根室林活議連協議会

目的

根室地方の森林・林業・林産業の活性化と山村振興並びに森林のもつ公益的機能の維持向上のための、情報交換と必要な事項について調査・検討し、森林整備と林業・林産業活性化及び山村振興に寄与することを目的とする。

組織

根室地方の1市4町議会で結成された森林・林業・林産業活性化推進議員連盟等をもって組織する。

11月18日、根室振興局中標津合同庁舎の新庁舎が完成し、関係者向けの内覧会が開催された。町内に点在していた4機関の機能を1箇所に集約し、12月に順次に移転し、供用を開始する予定である。



中標津合同庁舎の新庁舎の外観

庁舎には中標津保健所、根室農業改良普及センター北根室支所、中標津社会福祉事務出張所、釧路建設管理部中標津出張所が入る。この日は地元の関係者38名が出席。当議会より吉田副議長が出席。



根釧地域の木材をふんだんに使用した新合同庁舎内部のエントランスホール

根室振興局中標津合同庁舎
新庁舎内覧会開催

◆日時：令和7年11月18日

標津小・中学校、総合体育館など 複合施設として建設検討

老朽化が進む標津市街地の教育関連施設は、複合施設化に向けて令和6年度から検討委員会を設置し、令和11年度の建設開始を目標に検討が進められている。

対象は、①標津小学校、②標津中学校、③総合体育館、④学校給食センター、⑤町営食センター、⑥キラリ児童館の6施設。建設予定地は津波浸水域外の現在、町営球場と鳩ヶ丘体育館がある場所。

議会としては、町づくりに関わる重要な案件になることから、町民の声を拝聴しながら慎重に対応していく。



複合施設として建設が検討されている

- ①標津小学校
- ②標津中学校
- ③総合体育館
- ④学校給食センター
- ⑤町営プール
- ⑥キラリ児童館

〈建設検討施設の建築年度一覧表〉

施設名	建築年度	築年数
① 標津小学校	昭和44年	56年
② 標津中学校	//	//
③ 総合体育館	昭和51年	49年
④ 学校給食センター	平成5年	32年
⑤ 町営プール	昭和55年	45年
⑥ キラリ児童館	平成12年	25年

議会の対応状況

(書面会議)

(令和6年9月)

▽文教福祉建設常任で進捗状況の説明(町教委)を受ける
(令和7年6月)

▽第3回検討委員会出席
(令和7年7月)

▽第3回臨時会(3日開催)で次の補正予算を可決
・施設等整備の基本構
想・計画委託料、敷
地確定測量
14735千円

▽施設整備の基本構
想・計画委託業務プ
ロポーザル(企画競
争入札)選定委員会
出席(文教福祉建設
常任委員長)
(令和7年10月)

▽第4回検討委員会出席
(令和8年1月)

▽第5回検討委員会出席

▽第2回検討委員会
(令和6年3月)

(令和6年6月)
▽合同常任委員会で「標津町小中学校体育施設整備検討委員会設置」の説明を町教委から受ける。
※後に「標津文教施設等整備検討委員会」に名称変更
(令和6年6月)
▽第1回検討委員会出席(文教福祉建設常任委員長・副委員長)
(令和6年6月)

▽第2回検討委員会

議会の動向 (令和7年9月10日～令和7年12月14日)

期 日	会 議 及 び 行 事	出 席 者
9 月 1 0 日	第3回標津町議会定例会	議員 9人
1 1 日	第3回標津町議会定例会	議員 10人
//	広報特別委員会	委員 4人
1 2 日	決算審査特別委員会	委員 8人
//	札幌標津会総会（札幌市）	議長代理 1人
1 6 日	決算審査特別委員会	委員 8人
1 8 日	決算審査特別委員会総括質疑	委員 8人
//	第3回標津町議会定例会	議員 10人
2 5 日	文教福祉建設常任委員会	委員 6人
2 6 日	総務経済常任委員会（中標津町他）	委員 6人
2 9 日	第4回標津町議会臨時会	議員 10人
10月7～8日	久留米大学医学部表敬訪問（福岡県）	議長
9 日	広報特別委員会	委員 4人
1 6 日	広報特別委員会	委員 4人
1 7 日	根室林活議連協議会研修会	議員 5人
2 0 日	文教福祉建設常任委員会	委員 5人
//	総務経済常任委員会	委員 6人
2 1 日	茨城県日立市議会行政視察	議長
2 4 日	根室町村議会議長会議員研修会（中標津町）	議員 10人
1 1 月 8 日	黄川田内閣府特命担当大臣との懇談会（根室市）	議長
1 2 日	第68回町村議会議長全国大会（東京都）	議長
1 3 日	根室町村議会議長会道外視察研修（岩手県）	議長
1 8 日	根室振興局中標津合同庁舎内覧会（中標津町）	副議長
1 7 日	全国過疎連盟第60回総会（東京都）	議長
2 2 日	東京標津会（東京都）	議長他 1人
2 6 日	文教福祉建設常任委員会	委員 6人
//	両常任委員会町内視察	議員 10人
2 7 日	令和7年度標津町表彰式	議長他
//	議会運営委員会	議長、委員5人
2 8 日	中標津町外2町葬斎組合議会定例会（中標津町）	議長他
//	根室北部消防事務組合議会定例会（中標津町）	議長他
//	根室北部廃棄物処理広域連合議会定例会（中標津町）	議長他
//	根室北部衛生組合議会定例会（中標津町）	議長他
1 2 月 1 日	合同常任委員会	議員 8人
//	北方領土返還要求中央アピール行動（東京都）	議長
2 日	両常任委員会	議員 8人
9 日	町内団体長交流懇話会	議長他
1 1 日	全員協議会	議員 10人

寄稿

川北小学校

110周年にあたって



標津町立川北小学校

校長 藤吉桂子

川北小学校は、今年で110周年となりました。節目の年に改めて「100周年記念誌」を読ませていただき、当時の方々の教育に対する強い想いを感じたところです。

川北小学校は、大正4年、私設標津原野教育所として開校しました。この私設標津原野教育所は、まさに手作りだったそうです。

標津原野の開拓、入植が始まってわずか数年、毎日が開拓に明け暮れ、入植した方々はそれぞれの生活基盤すら厳しい中で、自分の

家や畑や道路、橋、それぞれの生活や生産労働のために優先すべきことがたくさんあった中、当時の人々は学校をつくりました。

「子どもたちの教育を」と学校教育に対する深い理解と情熱を抱いていたことがわかりました。人材育成と地域の未来を託す教育をとても大切に行っている川北地域の伝統と文化は、今も受け継がれていて日々の学校教育活動においても感じるところです。

きた「川北太鼓」があります。私が川北小学校に赴任して「いつ太鼓の練習をするのだろう」と不思議に思っていたのですが、3学期の休み時間に謎が解けました。5年生に太鼓を教える6年生の姿があったのです。先生が指導する姿はなく、子どもたちの意思で行っていることに驚きました。



6年生が5年生に伝統の「川北太鼓」を指導する様子

素晴らしい環境といえ、小学校は、子ども園・中学校と隣接しており、ともに学び合い成長することが出来る恵まれた環境にあります。そのような環境のもと、地域の方々や保護者の皆様に支えられながら、教育を行うことが出来ることに改めて感謝申し上げます。

110周年の節目にあたり、子どもたちが夢や希望をもち、人のつながりを大切に前向きに挑戦する学びが、子どもたちの「幸せ」に通じるように、また、自分のねがいに向かって進んで学んでいくことができるよう、保護者や地域の皆さま方とともに支えて参ります。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

編集室

「イワナの謎を追う」
 【岩波新書】
 (黄版272)

▼動物生態学者で北大名誉教授の石城謙吉氏の著した「イワナの謎を追う」と言う名著を頂いた▼石城氏は昭和36年、北大農学部を卒業後、標津高校に生物教師として赴任▼氏は当地の河川での釣りに夢中になった▼忠類川で釣った「赤い斑点のイワナ」【オシヨロコマ】と当幌川で釣った「白い斑点のイワナ」【アメマス】の二群のイワナの形態・生態に興味を抱き、北海道のイワナに関する研究に取り組み、その概要を記し、昭和59年に上梓したのが本書▼魚達が繰り広げる野生のドラマへと読者を誘う▼一読に値する書。

(吉田 智)

議長 小川 悠治

広報特別委員会

委員長 中畑 浩
 副委員長 藤本 靖

委員 吉田 智
 委員 西山 易男